

令和5年3月高等学校卒業者の就職内定状況について

1 内定状況

就職内定率	令和5年6月末 (令和4年6月末)	99.7% (99.8)
-------	----------------------	-----------------

2 就職内定率の推移

	H26.3卒	H27.3卒	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒
県	99.2%	99.7%	99.8%	99.6%	99.5%	99.5%	99.6%	99.5%	99.8%	99.7%
全国	96.6%	97.5%	97.7%	98.0%	98.1%	98.2%	98.1%	97.9%	97.9%	98.0%

※ 県は6月末現在、全国は3月末現在が最終報告となる。

3 県内・県外内定者の割合の推移

	H26.3卒	H27.3卒	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒
県内	85.0%	81.3%	81.0%	81.0%	80.3%	79.6%	78.5%	80.1%	81.0%	80.2%
県外	15.0%	18.7%	19.0%	19.0%	19.7%	20.4%	21.5%	19.9%	19.0%	19.8%

4 就職未内定者の推移

	H26.3卒	H27.3卒	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒	R5.3卒
人数	38人	15人	11人	19人	23人	21人	16人	21人	9人	9人
割合	0.8%	0.3%	0.2%	0.4%	0.5%	0.5%	0.4%	0.5%	0.2%	0.3%

5 進路達成支援事業の主な取組

- (1) 進路達成支援事業（「就職達成セミナー」「入社準備セミナー」「高校生の就職を考える保護者セミナー」）
- (2) 合同企業説明会・就職面接会（県雇用対策課・宮城労働局と共催）
- (3) 「地学地就」産業人材育成事業（「地学地就コーディネーター」の配置、企業訪問等で得た情報を生徒・保護者に還元）
- (4) インターンシップの推進（受入等の情報提供、県の機関におけるインターンシップ、インターンシップの手引の作成・配布）

令和５年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

1 目 的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
 (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2 学力検査の実施教科

国語、社会、数学、理科、英語

3 分析結果（全日制課程受験者）

(1) 平均点について

教 科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平 均	70.9 (58.0)	68.0 (57.3)	45.6 (58.2)	58.8 (58.9)	57.1 (54.7)	300.4 (287.1)	13,704 人 (13,518 人)

※（ ）は昨年度の値

(2) 得点分布

別冊 3～4 ページに記載のとおり

(3) 各教科の概況

全日制課程の学校・学科の中から、学力検査総点の受験者平均点を基にして 50 学科を抽出、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計 400 人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

教科	概 況
国語	話合いの状況を捉えることや、情報と情報との関係の表し方を理解し使うことはできるが、描写を基に場面展開や登場人物の心情変化を捉えたり、読み手の立場に立って文章を整えたりすることに課題がある。
社会	基礎的・基本的な知識や、個々の資料から情報を読み取る力は身に付いているが、事象を多面的・多角的に考察する力や、複数の資料から読み取った情報を関連付けて、適切に表現する力に課題が見られた。
数学	計算についての基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られるものの、問題文から条件を見だし数学的に表現する力、根拠を明らかにしながら、論理的に筋道を立てて表現する力に課題が見られた。
理科	基本的な知識及び観察・実験に関する技能は身に付いているが、観察・実験で得られた結果を比較し、相違点などを説明したり、考察したことを科学的な用語を用いて説明したりすることに課題が見られた。
英語	短い説明や会話から必要な情報を聞き取ったり、文章を読んで大まかな流れを捉えたりすることはできているが、会話の流れに沿って応答したり、文章の要点を的確に読み取ったりすることに課題がある。

各教科 共通 (得点率・ 無答率)	基礎的・基本的な知識・技能を問う問題の得点率は高く、学びの成果がうかがえる。一方で、複数の情報を比較したり関連付けたりして考察する問題や、論理的に思考し、その考えを文章等で表現する問題においては、得点率が低く、無答率も高い傾向がある。
----------------------------	---

※無答率：解答欄が空白であったものの割合

宮城県指定有形文化財の指定解除について

平成26年2月25日付けで宮城県指定有形文化財(古文書)に指定された^{たがじょう}多賀城

^{あとしゅつどもつかん}跡出土木簡について、令和5年6月27日付け文部科学省告示第58号により国の重要文化財に指定されたことに伴い、文化財保護条例（昭和50年宮城県条例第49号）第4条第3項の規定に基づき、同日付けで宮城県指定有形文化財の指定が解除されたもの。

1	名	称	^{たがじょうあとしゅつどもつかん} 多賀城跡出土木簡						
2	員	数	403点						
3	所	在	地	多賀城市					
4	所	有	者	宮城県					
5	県	指	定	年	月	日	平成26年2月25日		
6	県	指	定	解	除	年	月	日	令和5年6月27日
7	解	除	理	由	国の重要文化財指定による (令和5年6月27日付け文部科学省告示第58号)				
8	備	考	重要文化財指定の員数は450点						



※木簡：木製品に文字などが書かれたもの。